

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝申し送り後、施設理念を唱和し、意識づけをしながら地域に根差したサービス提供に努めている。全体会議で理念に沿った教育や指導を行い、日々のケアや個別ケアの検討に役立っている。	開設時に作成した事業所理念を玄関、スタッフルームに掲示しており、各ユニットで毎朝の申し送り時に理念を唱和し、理念の実践ができるように努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご利用者は、地域の清掃活動や敬老会に参加させていただいている。施設イベント行事等は回覧版にてお知らせし、地域の多くの方より参加していただいている。避難訓練時は、地域の方より見守りのご協力いただき、交流図っている。	地域のクリーン活動、敬老会にもご利用者と一緒に参加しています。また、近隣の保育園児と一緒にいも掘りをしたり、近隣住民からホームの環境整備を行っていただいたり、地域のボランティアの方にも来ていただく等、積極的に地域とのふれあいが心がけられています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	火災避難訓練に参加頂き認知症の理解や、ご利用者の見守りと、雨天時は一時避難場所としての協力をお願いし、運営推進委員からは食事会を通しご利用者との交流をいただいている。町内高齢者の災害避難場所として協力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に開催している。活動報告・日常の様子等ご覧頂き、要望、意見を受けながら今後の取り組みについての意見交換を行い、日々のサービス向上に活かしている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、町内会長、民生委員、老人会代表、地域包括支援センター職員、ご利用者、ご家族から出席してもらっています。参加者へ事業所の活動報告や事故報告を行い、会議で頂いた意見はしっかり受け止めて、サービスの質を向上するように努力しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	年4回市に広報を届けている。疑問点等ある時には担当者に意見をうかがっている。運営推進会議で包括支援センターの担当者には毎回参加していただいているので、その場で相談しアドバイス等いただいている。	地域包括支援センター職員には運営推進会議にも参加していただいております。また、事業所広報も市に定期的に送付する等、連携が図られています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する施設内研修会開催、全体会議などでも拘束しない教育や指導を行い、職員の共通認識を図ると共に安全面に配慮して自由な暮らしを支えられるよう努めている。	身体拘束を行わない方針のもと、玄関の施錠も夜間のみとしています。また、事業所で身体拘束に関する研修を行ったり、言葉による抑制についても管理者が気付いた時に指導するなど、身体拘束をしないケアに努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部・内部研修等には、必ず虐待防止教育を行い言葉の行き過ぎ・プライバシーを傷つけないよう、日常的に指導している。また職員間での情報交換、連携を密にし、お互いに注意し合える環境づくりにも努めている。	新聞報道の事例等も活用し、事業所にて虐待防止についての研修を行い周知徹底しており、虐待の防止に努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	保佐人制度利用2名、成年後見人制度利用1名あり。担当者との面談、面会もあり、相談報告等を行い連携図り、その人らしいケアに繋げるよう努めている。全体会議などで、制度について理解できる様、機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時納得頂ける様説明を行い、本人様には毎日の生活で不安のない様声掛け、対応の仕方に注意している。随時面会時、要望・疑問等は気軽にお聞きして頂くよう伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時・電話連絡時・日頃の様子・気づいたこと、などお伝えし、要望・意見等をお聞きしている。家族会食事会開催し、意見の出やすい場を提供し、反映できる様に努めている。	運営推進会議の場だけでなく、面会時や電話連絡の際などに気付いたことや要望は無いか確認しています。また、事業所の家族会や行事にはご家族にも参加していただき、ご家族との交流を図り意見が出易くされています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員より提案・意見など出た場合、リーダー会議にて検討し、全体会議・ユニット会議に図っている。また職員一人ひとり、面談実施し意見や意向、気持ちの吸い上げに取り組んでいる。	日常の業務の中で職員から改善提案があれば、毎月の全体会議・ユニット会議の場で職員同士で検討が行われ、改善されています。また、状況に合わせて個人面談も実施し、職員の意見を吸い上げられるように取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	平等目線で勤務態度を把握し賞与等に反映している。働きやすい環境づくりとスキルアップ出来る環境づくりに努め、個々の良いところ、素晴らしい提案やケア等行った時は褒めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得できる様、研修受講の機会の確保・環境整備に努めている。資格取得者は報告と共に、自らスキルアップするよう指導している。認知症研修2名、看取研修1名、虐待研修3名実施。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の待機者情報交換を行ったり、互に福祉用具の情報交換を行いサービスの質の向上を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に見学を勧めている。担当介護支援専門員より情報収集を行い、事前面談し出来る限りご本人とお話しの機会を多くし、不安のない受け入れに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望・不安を受け止め、ご家族の協力も頂けるよう働きかけながら、ご利用者様を支えて行けるよう取り組んでいる。事業所としての対応など事前に話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面談でご本人の状態を確認しご家族・担当ケアマネ・相談員より情報を集め必要としている支援を見極め、検討、職員共有しより良い対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今・昔・これからの事をゆっくり話し合える時間を大切に、毎日の暮らしの中で共に支え合える関係作りに留意し、人生の先輩としての感謝の気持ちをも伝えている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会・食事会を設け、ご利用者・ご家族の意見を伺い、食事を通しご家族とのふれあいの時間を楽しんで、頂いている。ご家族の一員としてご本人・ご家族との絆を大切にさせて頂ける様心掛けている。定期的な面会もお願いしている。	3ヶ月に1度は事業所広報をご家族にお送りしているほか、広報を送らない月には担当職員よりご利用者に応じて近況報告もお送りしています。受診・外出・外食の支援もご家族の協力をいただくなど、一緒に支えあうことができるよう関係づくりに努めています。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に暮らす馴染みの知人・友人、町内の人との交流など、今までの関係が途切れる事のない様努めている。面会があったときはまた来てほしいこと伝えている。	知人の方に面会に来て頂いたり、ご家族の協力も得て自宅への外泊やお墓参り、温泉旅行に出かけたり、小学校の同級会に参加したり、行きつけの美容室に出かけたりと今までの関係継続支援に努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の関係を把握し定期的に席替えを行っている。ご利用者様どうし良い関係を保てる様、状況把握に努めている。また孤立しないよう交流できる様職員仲介・利用者どうし支え合え関わり合える配慮に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	状態低下され入院、入院長引き退所となり、特養申し込み、入所、死亡となるも、その後ご挨拶にこられるご家族様もあり。看取り後実家があり、帰省されるごとに、思い出を語りによられるご家族様もあり、これまでの関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時の日常生活についての情報と、家族の話また本人の話をお聞きし希望や意向の把握に努めている。センター方式にて細かい気づきを大切にしている。	日々のケアの中での表情や会話の中から思いの把握が行われており、その情報は職員会議の場で連絡され、ケアプランの検討に活かされています。	調査時点で介護計画作成時のご家族からの意向確認をどのようにされているかが記録されておらず、分かりませんでしたので、今後記録されることを期待します。
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回の情報をもとに、本人との会話の中、家族の面会時、などで確認している。居室担当が他職員からも情報収集しフェイスシートの見直し行い情報の共有行いケアの向上に努めている。	ご本人やご家族からの聞き取りにてこれまでの暮らしの把握が行われ、ご利用者の生活歴をより把握できるように、全てのご利用者に対して生活史シートを作成し、職員間で情報を共有しています。	センター方式も介護計画作成時に見直しを行い、定期的に情報を更新されることを期待します。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝、夕の申し送り時、1人1人の状態、1日の過ごし方、記録したこと伝え、職員全員が情報共有でき、統一したケアを行い、利用者が混乱することのない様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のかかわりの中で、本人の意向確認している。家族へ面会時ご様子お伝えしている。面会・電話等で意見要望お聞きしている。年間の介護計画に基づきモニタリング・担当者会議開催しユニット会議で周知、統一した介護に努めている。	3ヶ月に1度は担当介護職員と計画作成担当者がモニタリングを実施し、6ヶ月に1度のサービス担当者会議の前にはご家族の意向を確認し、介護計画に反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活記録に、ご本人の言葉や様子を記録し、毎日の申し送り時報告している。統一した介護となるよう情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者一人一人の要望でなじみの店、場所への支援、また家族の都合で受診できないときはお連れしたり、入院中など遠方の家族の代理をし必要物品、洗濯物の支援など、個々を支える為の柔軟な対応、支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	広い敷地と長閑な環境、畑も多く農作業に勤しんでこられたご利用者が多く、野菜を作り喜ばれている。散歩時の近隣の方とのご挨拶、イベント時近隣の方の参加、合同茶話会楽しめる。地域の行事も参加し地域とふれあい大切にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時ご本人ご家族様に、かかりつけ医、施設医の説明行い希望お聞きし納得のいく受診支援を行っている。ご家族様が遠方時は職員で対応している。	かかりつけ医はご本人の希望するかかりつけ医となり、往診にも来て頂いています。受診時は原則ご家族が付き添いますが、必要に応じ職員が同行し、医師との状況の確認が行われているほか、ご利用者の情報をまとめた情報提供表を作成するなどの情報提供も行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	いつもと違うと気づける日々の観察を養い、体調不良時は看護師と連携とり、適切な対応をしている。緊急時は施設医、またはかかりつけ医に連絡、指示を仰ぎ適切な医療受診の支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、紹介状、サマリー提出し情報提供している。時々様子伺いし、治療、リハビリ状況、退院状況など関係者と連携図り、早期退院できる様努めている。家族が遠方時は、必要物品、洗濯物の支援もしている。入院長期時は家族・連携室・SWとこれからの生活の相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時施設の方針を伝え、本人ご家族様の意向確認している。変化時かかりつけ医、ご家族様、施設と話し合いの場を設け方針を決める。その結果方針を全職員に伝え共有し、統一した介護に努めている。	契約段階で管理者は看取りに関するホームの方針を伝え、同意書を頂いています。実際にホームで看取りの支援をしたご利用者もあり、ご利用者の状態に応じて話し合いの場を持ち、ご利用者・ご家族の意向を確認し、ホームでできることを伝え、主治医や看護師とも連携し支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを使い心肺蘇生の訓練、異物除去説明会、骨折等応急処置訓練など定期的に行っている。訓練、研修の年間計画を立て、計画に基づき訓練を行い、即実行できる実践力を身につけている。	消防署職員に来て頂き、心肺蘇生、AEDの使用研修を受けており、ホームでも食中毒や嘔吐物処理の研修を行い、急変時に適切な初期対応ができるようにしています。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署参加の訓練時は、地域の方より参加いただき見守りをいただいている。施設内訓練は特に夜間想定で月1回は実施、タイムを計りいち早く避難できる様努めている。緊急連絡網を一斉メールにていち早く全職員に連絡している。	事業所にて夜間の火災を想定した避難訓練を行なっています。町内の方にも避難訓練に参加してもらっているほか、災害時を想定した非常用の食品や水も確保されていました。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	契約時、広報や掲示物への写真の掲載に関する同意書をいただいている。必ずご本人の意思を確認しながら、誇りやプライバシーを損ねないような言葉かけに十分に注意しながら対応している。	言葉かけ等が馴れ合いにならないよう、ご本人の人格を重視したケアが行えるように職員会議の場等で徹底されています。また、広報や事業所内の写真の掲載についても契約時に確認が取られています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言語以外での表出に対しては、職員間の情報交換や研修等で、表情やしぐさ等から読み取ったり感じ取ったりできるように日々研鑽している。複数の選択肢を用意したり、時間にとらわれず、出来る限り思いや希望を表し、自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間での対応はせず、個別に入居者様それぞれの体調を見ながら、希望をその都度お聞きし対応している。一人ひとりのペースを大切に、個別対応を常に意識するように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	それぞれの入居者様に、職員が着替え等をする際はご希望に沿って用意するのをお手伝いしている。訪問理美容の利用も希望によりしていただいている。また、なじみの理髪店希望の方には、個別支援もしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様禁食等変更し、食器や箸・スプーン等も個別対応している。嚥下しやすい様にトロミ剤等を活用、安心・安全に食事を楽しんで頂いている。また調理可能な方と一緒に作り、食事作りの楽しみも味わっていただいている。	調理や後片付けもご利用者と一緒に行っているほか、事業所の畑での野菜の収穫はご利用者の楽しみとなっています。ご家族にも協力して頂き、ご利用者の要望に合わせて外出に出かける等の支援も行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食事時の食事量を記録し、献立表のカロリー表示を目安に調理している。水分を摂りたがらない方には、ゼリー等で必要量が摂取できるように工夫している。職員間の情報交換により、より具体的な個別支援が出来るように心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、状態に応じて出来ないところを介助している。口腔内をチェックし、歯科への受診や訪問歯科診療も利用している。口腔ケア研修も定期的に行い技術向上に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターン・習慣を把握し訴えない方や、一人ではトイレに行けない様な方にも、声掛けや定時の誘導を行うことにより、失敗を軽減し自分の力でトイレで気持ち良く排泄できる様、自立支援を促している。	ご利用者全員に排泄チェックを行ない、排便の状況に合わせてご利用者に合わせた下剤を調整するなど、一人ひとりに合わせた適切な誘導、支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	施設内歩行、屋外への散歩、レクリエーション、体操等極力体を動かす時間を設けている。食事面では、消化の良い物や繊維質が多い物など、メニューを工夫。起床時冷水摂取も取りいれ主治医、看護師と連絡とり対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	主治医からの指示が特別にある方については、その指示通りの回数・入浴方法で入っただけではない。行事・受診等がある場合には、変更して個々に沿った対応している。	お風呂は一般浴槽と特殊浴槽があり、週2回、午前での入浴支援が基本ですが、ご利用者の希望に添った時間帯に合わせて入浴支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣、身体・精神的状況を把握し、その都度希望により休息していただいている。寝付けないような方については、傾聴したり、落ち着くまで寄り添ったりしながら対応している。主治医より寝付けない時の頓服等が出ている方については、指示通り対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれの入居者様の服薬情報を個別ファイルに綴り、いつでも職員が確認できるようにしている。薬の変更時は、看護師より説明も行われている。配薬は看護師が対応。服薬時は、名前等を確認し飲み込みの確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や嗜好を日々の生活状況から出来るだけ把握し、出来ること、出来そうなことをご本人と話し合いながら、役割を担っていただいている。日々の生活の中に個別で買い物、外出、散歩等を取り入れ、気分転換と同時に、その方の生活のハリにもつながるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様それぞれの希望により、個別での外出を支援している。なじみの理髪店、行きつけのスーパー、自宅への外出等、職員だけではなく、ご家族の協力もいただきながら行っている。ドライブに出かけ、季節感を味わってもらっている。	ご利用者と一緒近くのスーパーに食材の買物に出かけたり、季節に合わせたお花見やぶどう狩り、はす見学やあじさい見学などの外出も実施しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、「入居者自身の力を活用する」ということを意識の中に置きながら、ご本人・ご家族の希望を十分に伺いながら、少額の所持や、買い物時の支払い等、出来ることを支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、ご本人・ご家族の希望により、かけるのはもちろん、取次も自由にいただいている。手紙のやりとりも自由にいただいている。送付も職員が支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日差しの強い時には、カーテンを閉めたり、窓を開けたり、空調を適宜調整している。トイレ・玄関には、消臭剤を設置したり、季節を感じられるような草花を装飾したりしている。職員と入居者様で季節感があるものを作成し、飾っている。	共有スペースは広々として開放感があります。共有スペースにある畳の小上がりはご利用者がお昼寝をしたり、洗濯ものを畳んだりして過ごせる場所です。飾られている装飾品も季節に合わせてあるほか、活動の様子をまとめた写真も掲示されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	小上がりを活用し、一人でゆっくり過ごせるような配慮をしている。リビングでは、入居者様同士でおしゃべりや交流を楽しめるように配慮している。将棋や花札、読書、塗り絵、編み物等用意し、一人でも仲間でも過ごせるような配慮もしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までの生活が出来るだけ継続できるように、自宅で使用していたものを極力持ち込んで頂き、居心地良くすごして頂けるように配慮している。	居室には仏壇やラジオ、本などの使い慣れた物を自宅から持ち込んでもらっています。また、ホームでの写真やご家族の写真、カレンダーを飾るなどして、その人らしい部屋作りの工夫をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内は今までの生活環境を意識しながら、ご本人の動きや気持ちに合わせて家具等を配置し、安心して自分の動きが出来るように配慮している。また、文字だけではなく、目印になるようなものを配置し、混乱しないで安心・安全に生活を送れるように配慮している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない